

『豊里大橋』は昔、”平太の渡し”と”今市の渡し”やった！



■ 淀川堤防南側（左岸）にある平太の渡し跡の碑



■ 淀川堤防北側（右岸）にある平田の渡し跡の碑
（写真右は側面を撮影したもの）



南は「平太」、北は「平田」。どちらも『渡し』の碑

淀川筋には古くから多数の渡し場があり、本流では宇治・山崎・橋本・出口・鳥飼他あり、下流の大川筋にも長柄・源八・桜・川崎などがあつた。平太(田)の渡しは、大正8年施行の道路法以来[東淀川区386号]という認定道路であつたため無料となり、大正14年市域拡張で大阪市営、昭和23年4月請け負制から直営になる。周辺部の市街化で利用者が急増し、片道20分で手漕ぎ船20人乗りのため、朝夕多くの積み残しが出たり、強風雨の時には欠航もした。昭和35年10月に21人乗り発動機船、昭和38年12月に36人乗りとなり、最盛期には一日約3千人の乗客と670台の自転車を運び人々に喜ばれ、**淀川筋の最後の渡し**として維持されたが、昭和45年3月**豊里大橋の開通**により姿を消した！昭和49年淀川100年事業記念として作られた碑の文字は、公募で選ばれた方の作品。その名を惜しみ袖高欄に記念の銘板が取り付けられている。 <小椋>



■ 豊里大橋の袖高欄に取り付けられた記念の銘板



豊里大橋

昭和45年3月完成。万国博覧会の関連事業。大阪市東部を縦走する都市計画道路新庄大和川線(大阪内環状線)が淀川を渡る、上流の鳥飼大橋と下流の長柄橋の中間地点。水面から45メートルの高さにA字型の塔を両岸に建て、この塔から斜めにザイルを張り橋を吊り下げた通称”やじろべえ橋”幅18メートル、道路部全長928.22メートル、橋長561メートルのうち、中央376メートルの斜張橋。ケーブルは、新工法で直径5mmの素線を平行に束ねた六角形状直径2.8cmを上段2464本、直径2.2cmを下段1524本と当時世界初のケーブルの大きさで、全て実験済みであった。大阪市の東玄関口のモニュメントとして外観および景観形成についてシンプルさと明快さで今も夕陽に映える橋として多くのファンを呼ぶ！下流隣に位置する菅原城北大橋とは夫婦橋とも称される。大阪市にある斜張橋6橋のうち2橋が旭区にあります！神戸の摩耶大橋は昭和41年、瀬戸内海の尾道大橋は43年に続き、当時大きさ日本一の斜張橋！ <小椋>

斜張橋の特徴は…

- ①ケーブルによる応力調整が可能で、鋼重が軽減できる。
- ②均等に小さな等高桁も設計できる。
- ③吊橋に比べ剛性が大きく、耐風、耐震設計に適性。
- ④美観に優れている。軟弱地盤の多いわが国に施工上有利な形式である。



■菅原城北大橋



■フィールドワークで豊里大橋を見学

■参考文献

- 『旭区史』
- 『大阪市渡船マップ』
- 『淀川兩岸一覽・宇治川兩岸一覽』
柳原書店 昭和53年発行
- 『大阪の橋 大阪市における橋梁技術のあゆみ』
(財)大阪市土木技術協会 平成9年発行

大阪市にある斜張橋6橋のうち2橋が旭区

にあります！